

西垣文庫 特
文庫 10
7343
2





板倉候へ差上

御殿へ
 十六女
 女を權
 妻とほ
 罷地を
 とら識
 めてと
 老人
 あり

岩代國福島十四丁目旅入宿
 岡崎伊六八十余女有御
 子暮し常の節一こ鶴を
 飼置是を愛し鼓を
 奏て雀の庭前を舞を
 まのまの餅のわき時ハ
 嘴あて老人の袖をひく
 有様長生の端相と
 知られりまの節
 王子を加へ来て節を渡す
 其王子をニツホ
 切て盃とほし
 一ツハ



今一ツハ
 東京の
 親族へ送る
 かる目出度
 有あれハ此程
 柳巡行の
 時菊の

西垣文庫

東京新富座の立者

尾上菊五郎の送り

長七とろい休座の

浅草

奥山の擧げ會

中打て手あこの

程を×

兄せん

そのと

友達引

連れ大寺を

ふつて兜りまへ

あー一本旗と



田 起きりひびくして落さる

しから解し

友達お分把

これかゝりふ

這起七て

青葉子

老後

引連

ゆけまゝ相手不

出らん十七八の

別品由へ太刀討

とりのりあまを

廻討せんと思ひ一ふ

ヤット声かけ

上段下段討合

太刀風梅香の

長七先生下段不

月をつけ突出木刀を

右手ふらひ画面下エイト

一本つれ大先生ハ真仰向

老む一が程月ルくろく







だまし
 ちと丘を
 らけとる
 小界
 あか
 肉へ
 明治十年五月石川縣
 魚討首成とを
 天網院
 此の世は遊ばし行
 と能く境を押し
 んで咽喉を
 えて殺し
 かんあしと
 城のや
 切りて
 息の根
 をあて



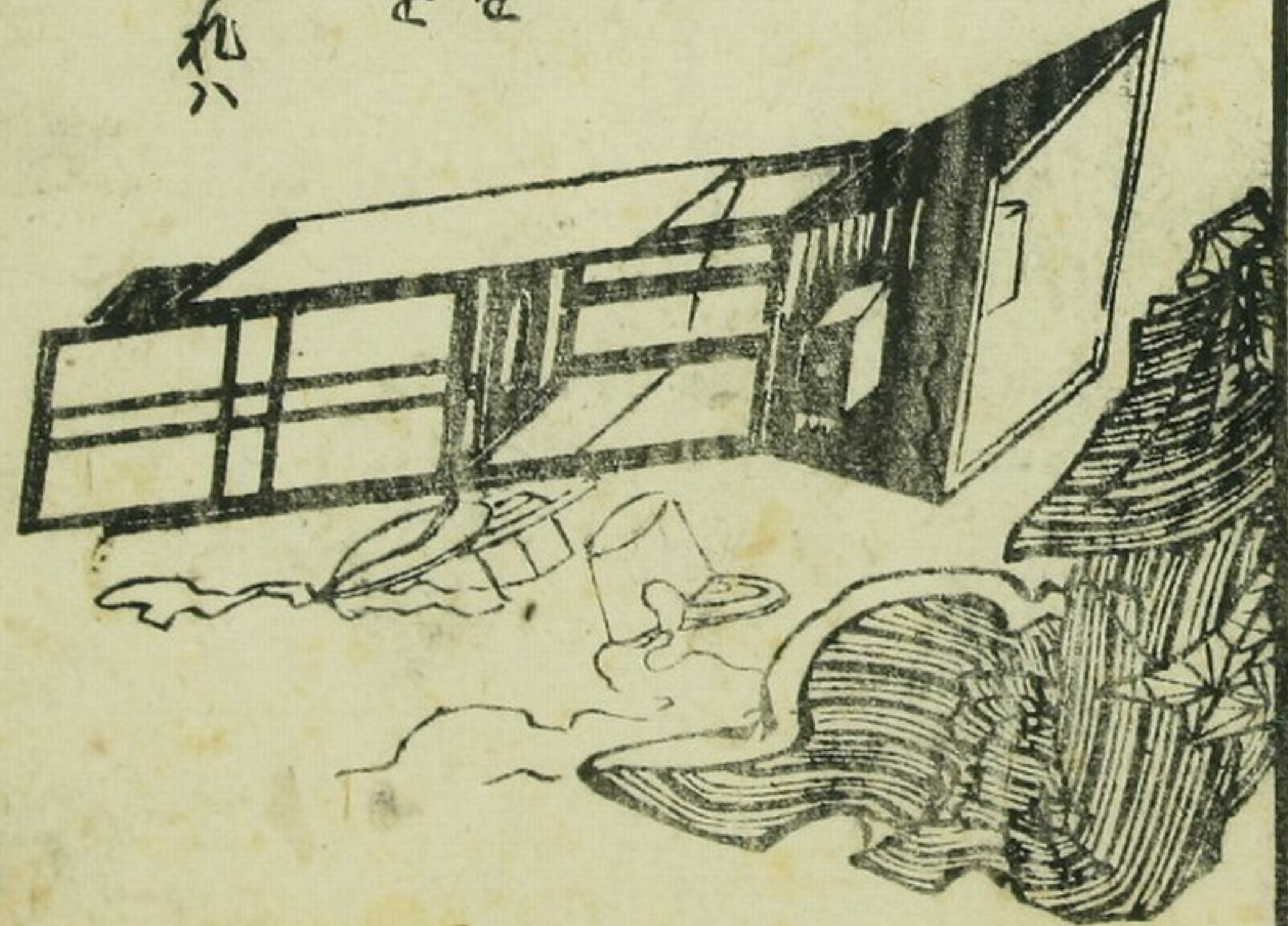
越前の因幡郡犀川八出水の河との碎れ魚
 吹かれ柳も水も不甘れ
 三日月形の髪髻を
 びげて抱こすを
 養育
 金と名を
 つけて
 買つて
 引籠り令
 を遊ばし
 小里連て
 りての近所のおも
 仏と仇名の字四序
 まのまへもやん
 どの泣く
 どの泣くへ
 ささく
 井ひ言を

東京
吉原町
住貨渡世
甲傳兵衛
姪おらく八年八十九の
ホツ子ヤリ娘麻呂丸髪



賊ハ駿
丸呂敷色
をあげ
捨て跡
白波
迹

何れ先かて驚みまじ
ちらまきし其うつくしき
盗人のえとれて此處
そのまふ風と目を覚
起上り見れぬおれぬ
大の男丸呂敷色を
背負ひて人せしを
おらくハ飛生むいぬあり身を
女と悔りやうをまさんと此を
おかくと見れぬおれぬ
女の力必死とあて合ふれハ
志すや声振立て
泥埃くと叶びぬ



明治十
年六月
十三日の
一と
ど

芥子園

五

東京深川富岡町
住居のんまおたるの
お貞子の藤林と
松吉の標合ら
口傳の指先
おろし
中そのうふ
松町の
松吉の進と云
松吉の進と云
松吉の進と云

そのおをのん松を
さかことらまで藤林の



取調への三人
とて十松の
贖罪金で
事より
と云ん

松吉等しき目を
むきおし松町へ
途中出合おら
松吉の進と云
松吉の進と云
松吉の進と云

左てハ双方
目々討
来くるお春の
マアまらへし
おるも目々の
掛木まらへし
不破お名古屋も
目々同志果
あき内巡査お引れ



芳春筆

東京淺草區

淺草馬道三丁目角

壹番地

大橋堂 兎玉弥七板